

おめでとうございます

香川県出身者初

玉尾皓平さん 文化勲章を受章

あなたと市政をむすぶ



広報
No.218

かんおんじ

2023 / 令和5年

12 December

祝 文化勲章受章 玉尾皓平先生

祝 香川県出身者初 玉尾皓平さん 文化勲章を受章

interview

玉尾皓平さんインタビュー

このたびは、国内最高の荣誉である文化勲章を天皇陛下から直々に授かり、身に余る光栄です。私たちが取り組んできた新しい物質を創る「有機合成化学」「元素科学」の研究を高く評価いただいたことは素直にうれしく思います。これは私一人の力で成し得たものではなく、ひとえに多くの方々のおかげです。受章した今も「本当に私でいいのか」と戸惑いはありますが、この荣誉を汚すことなく、今後も精進していこうと身を引き締め、気持ちを新たにしているところです。

受章決定が新聞やニュースで発表された直後から現在まで、本当に多くのメールや電話、祝電をいただき、反響に驚いています。

化学者への道を開いた故郷・観音寺市での子ども時代

我が家は、父が内科小児科医、母が薬剤師で、父母2人だけで小さな開業医をしていました。自宅の隣に住む同級生の國土浩利さんの家によく遊びに行き、チョウの採集が趣味で望遠鏡を自分で作るくらい理科が好きな、浩利さんのお兄さんから大きな影響を受けました。

小中学校では先生に連れられて地元の雲辺寺山はもちろん、剣山や石鎚山に登りチョウの採集をしていました。四国のチョウはほぼ採集したと思います。



小中高校で出会った素晴らしい恩師

一ノ谷小学校6年生の担任だった藤田修先生は厳しくも優しい方で、先生の「慢心するなよ」という言葉は今も心に残っています。

三豊中学校で3年間担任だった岡武雄先生は理科の先生で、科学の楽しさを教えてくれました。岡先生との出会いは、その後の私の生き方に大きな影響を与えたと思います。三豊中学校3年2組は結束が固く、先生が2年前に99歳で亡くなるまで同窓会が続きました。

そして、観音寺第一高校で3年間担任だった川原一先生。コンパスなしで黒板に完璧な円を描く川原先生に幾何学の面白さを教わり、数学が好きになりました。

温暖で平和な環境で昆虫採集を楽しみ、素晴らしい先生方や心優しい大人たち、友情あふれるクラスメートに出会えたことが私の人生の原点だったとしみじみ思います。

ふるさとの子ども達へメッセージ

観音寺の貴重な自然環境の中でめいっぱい遊び、たくさん友達を作り、そして先生方に感謝の気持ちを持って、目の前のことに一生懸命、楽しく取り組んでほしいです。そうしたらやりたいことが見えてきます。「今を大切に、そして楽しく」です。

今後は、化学を中心とした科学技術の発展と次世代の人材育成、「一家に1枚周期表」の活動などを通して一人でも多くの子どもたちに化学の分野に興味を持ってもらえるよう力を尽くしていきたいと思っています。

小学生時代の家族写真。後列左から、母・智恵子さん、父・延忠さん、兄・博康さん、前列左から玉尾さん、兄・嘉邦さん、妹・和子さん



古川町出身で観音寺市名誉市民である玉尾皓平さんが、香川県出身者として初めて文化勲章を受章しました。文化勲章は、文化の発達に関し顕著な功績のある人に対して授与される勲章で、玉尾さんは化学者として長年有機化学の発展に貢献した功績が認められました。

文化勲章受章の親授式は、11月3日（文化の日）に皇居宮殿「松の間」で行われ、天皇陛下から受章者一人ひとりに文化勲章が贈られました。令和5年度文化勲章は、玉尾さんをはじめ、能楽師の野村万作さんや元日本サッカー協会会長の川淵三郎さん、作家の塩野七生さんら7人が受章しています。

profile

たまおこうへい 玉尾皓平さんプロフィール

昭和17(1942)年観音寺市古川町（旧一ノ谷村）出身。一ノ谷小学校から三豊中学校、観音寺第一高等学校に進学、京都大学工学部合成化学科を卒業。工学博士。昭和47(1972)年に発表したニッケル触媒による新しい炭素同士の結合方法「熊田-玉尾クロスカップリング反応」は工業製品や医薬品などの開発に応用されている。平成17(2005)年に文部科学省発行の「一家に1枚周期表」による科学の普及を提唱、制作を主導し、科学の普及啓発活動にも取り組んでいる。平成17(2005)年より理化学研究所に転出し、基幹研究所所長などを歴任。平成28(2016)年から（公財）豊田理化学研究所所長。京都大学名誉教授。理化学研究所名誉研究員。観音寺市名誉市民。

- 受賞(章)歴 日本化学会賞、日本学士院賞、米国化学会賞、朝日賞、紫綬褒章、瑞宝重光章など

「一家に1枚周期表」シリーズはQRコードからダウンロードできます



京都大学化学研究所教授時代。京大での研究生生活は40年以上に及ぶ



科学を身近に感じてほしいと制作した「元素周期表」。サイエンスポスター「一家に1枚」シリーズの第1号となった



市役所に懸垂幕を設置しました

受章を祝し11月2日に市役所本庁舎前に懸垂幕を設置。一ノ谷小学校からの同級生の皆さんが喜び合いました。白川智洋さん(写真右端)は「受章は一ノ谷地域にとっても誇りのある素晴らしいこと」と話しました。

ふるさと観音寺から喜びの声

母校の後輩たちから

文化勲章の受章はとにかくすごいと思います。私は将来は動物に関わる仕事がしたいです。私も玉尾さんのように頑張ろうと思うし、挑戦していきます。(國土さん)

玉尾さんが子どものころに四国のチョウをほとんど採ったと知り驚きました。自分が好きなことをずっと続けていけば、玉尾さんみたいにになれるのかなと思います。(佐伯さん)



一ノ谷小学校6年
國土仁菜さん(左)
佐伯奏登さん(右)

同じ中学校の後輩として誇りです。「僕たちもこんなになれるかもしれない、なるんだ」という意欲をかき立てられ、自信になります。僕は将来高等専門学校に進学しゲーム開発の道に進みたいと考えています。ゲームを通して日本の産業を活性化させ、海外でも仕事がしたいという夢があります。玉尾さんのように、日本や世界で活躍できる人になりたいです。



三豊中学校3年
梅本大雅さん

友人たちから

玉尾さんは昔からずば抜けて優秀で、人間的にも気さくな人。世界に通じる発見をして素晴らしい功績を残したことをうれしく思っています。家が隣同士なので、庭の生け垣を潜り抜けて互いに行き来していました。4歳上の私の兄がチョウの採集が好きで、私たちもそれを真似て採集箱を作り、小中学生のころは石鎚山などで熱心に採集をしました。

三豊中学校では3年間担任だった岡武雄先生に共にお世話になりました。



左) 中学時代の昆虫採集の様子。左端が玉尾さん、右端が國土さん
右) 三豊中学校卒業記念写真。右端が岡先生、後列の岡先生の隣が玉尾さん

卒業後も同窓会を長年続けており、玉尾さんは自分の自慢をしないため、岡先生が彼の受賞歴などを資料にまとめて同窓生に配り、「教師冥利に尽きる」とおっしゃっていました。先生は2年前にお亡くなりになりましたが、ご存命なら今回の受章をどれだけ喜んでいただけたことかと思います。



國土浩利さん(古川町)



玉尾先輩、おめでとうございます



観音寺第一高校では、例年12月に1年生2クラスが科学体験研修で理化学研究所を見学。後輩のために玉尾さん自ら講話を行っています。



昨年10月にクラスで玉尾さんの講話を受けました。化学の面白さやご自身の研究姿勢、母校への愛を熱く語ってくださりうれしかったです。私は生物の研究者になるのが目標なので、玉尾さんのように自分の名前が付くような世界的発見ができれば、功績だけでなく、人としての姿勢も見習いたいです。(吉田さん)

授業で玉尾さんのことやクロスカップリング反応について習い、そのすごさに驚いています。私も玉尾さんのように、熱中することを見つけて努力したいと思います。私は教師になる夢があるので、子どもたちに明るい未来を見せてあげられるよう頑張っていきたいです。(三宅さん)

観音寺第一高等学校
理数科3年
吉田大晟さん(左) 三宅由希子さん(右)

高校時代は2年間同じクラスで、共に美術部に所属していました。受験競争のそれ程激しくない時代で、授業が終わると皆で校庭に飛び出して遊んでいました。今も昭和36年卒業生の同窓会「36(サブロク)会」が続いています。玉尾くんがノーベル化学賞候補になり、惜しくも逃したときは悔しい思いでしたが、今回の受章を聞き、皆が喜びしています。彼はすごい仕事をする中でも、仲間や同窓生、母校の在校生など人を大切にしてきました。今回の受章はそのたまもの。観音寺の、のんびりとした自由で豊かな環境が、彼をこままでの人に育てたのではないかと思います。



高校時代の記念写真。
左から森川さん、玉尾さん



森川善弘さん(茂木町)



左から谷口さん、玉尾さん、
恩師の岡先生(2016年)



谷口好美さん